



つながろう

CO-OP アクション情報

2012年5月30日

第 17 号

# 菜の花に願いをこめて

## 塩害を乗り越え、「なたねプロジェクト」商品化に期待



©山田省蔵

東京ドーム約2個分の菜の花畑が広がる。周辺は、菜の花の甘い香りに満ちていた。

津波の被害を大きく受けた宮城県岩沼市玉浦地区。現在も、沿岸部付近の農地は浸水し、津波の爪あとがはっきりと残っています。そんな玉浦地区の農地一面に菜の花が咲き誇りました。

一面の菜の花畑に歓声をあげ、また、協力団体から振る舞われた豚汁や天ぷら、おにぎりなどに舌鼓を打っていました。

みやぎ生協・食のみやぎ復興ネットワーク事務局の藤田孝さんは、「花が咲くかと心配していましたが、無事開花し、ほっとしました。商品化したら、全国の生協の宅配でも取り扱ってもらえないか呼び掛けていく予定です」と話していました。

「食のみやぎ復興ネットワーク」（みやぎ生協他 184 団体参加・2012 年 5 月 20 日現在）が「なたねプロジェクト」※として菜種をまいたのが 11 年 10 月 10 日。その 7 か月後の 12 年 5 月 10 日、一面に咲いた菜の花畑で「菜の花を見る会」が開催されました。

当日は、プロジェクトを共同で行なっている 10 団体他、みやぎ生協組合員、そして、玉浦地区の住民など約 150 人が集まりました。参加者は、

※被災した農地に、塩害に強い「なたね」を植え、収穫物（なたね油、農地に置いた巣箱からとれたはちみつ等）の販売収入などで被災した生産者を経済的に支え、また、農地の耕作放棄を防止する取り組み。津波の被害で荒廃した農地が広がる地域に「菜の花の咲く風景」を作り、地域を励ますことも目的の一つ。



津波の爪あとが残る、岩沼市の沿岸部。周囲には、がれきの山や基礎のみが残る家が目立つ。